

11月

みんなくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■時間 14時30分から15時30分

■展示観覧料が必要です。

※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんなく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！
「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」
などなど、話題や内容は千差万別！
どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

6日
(11月)

話者：Jyotindra Jain（インド視覚芸術センター所長）
三尾稔（国立民族学博物館 准教授）
話題：【企画展関連】インドのポピュラー・アートの発展史
場所：企画展示場A 入口

13日
(11月)

話者：平井京之介（国立民族学博物館 准教授）
話題：北タイの農村と工業団地の20年
場所：東南アジア休憩所

27日
(11月)

話者：佐々木史郎（国立民族学博物館 教授）
話題：【特別展関連】ヨーロッパのアイスコレクション
場所：特別展示館

1年間みんなくは何度でも入館できる 「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいあります。

- ◆特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引
- ◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引
- ◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話06-6877-8893 / 平日9:00 ~ 17:00)

編集後記

1日の調査をおえ、ストックホルムのあるカフェーのテラスで、行きかう人びとを眺めていた。目は自然と女性の方に行ってしまうのだが、足の運びが日本とは違うことにあらためて気がついた。つま先まで伸ばし颯爽と踏みだす足に腰とからだがついていくような歩行は、膝を伸ばしきらず小股で歩く日本とは確かに違う。とはいえこの違いは人種的なものではないようだ。明らかに中国人とわかる観光客はここでも日本人を凌ぐほど増えたが、老若を問わず、背筋をたて足を伸ばして歩く様子はむしろこちらの人に近い。日本のはやりの少女チームの踊りをチキンダンスと評した人がいたが、韓国のチームとの歴然とした差もひよつとすると足の使いかたという深淵なところに起因するのかもしれない。本特集号で野村氏は足の機能は人を運ぶことのみに退行しつつあるのではという説を紹介している。その基本的な機能にまでおよぶ文化的差異は車社会とグローバル化のなかでどちらに向かうのだろう。(庄司博史)

2011年9月号1ページ目次において著者名を誤って記載しておりました。お詫びして訂正いたします。
「フィールドで考える」(誤) 林麗央 (正) 林麗英

- 表紙：女性用 靴中敷き 地域 中国（ベ一族）
標本番号 H0237585、H0237586、H0237699

次号の予告

特集

ポピュラー・アートって何(仮)

月刊みんなく 2011年11月号

第35巻第11号通巻第410号 2011年11月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 八杉佳穂
編集委員 庄司博史(編集長) 樫永真佐夫 川口幸也
久保正敏 菅瀬晶子 中牧弘允 山中由里子
編集アドバイザー 山内直樹
デザイン 宮谷一敏
制作・協力 財団法人 千里文化財団
印刷 日本写真印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に
お願いします。
*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分(茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)
- 自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてください。



みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

